

国際交流基金助成事業報告書

大阪薬科大学 薬学部薬学科 4 年次生 今井 千絵

このたび、国際助成金を受けて、チェコ・ポルトガル・韓国の薬学生を薬学連盟を通して関西に 2 月 6 日から 3 月 1 日まで受け入れました。留学期間において、日本薬学生連盟交換留学委員会では薬局・病院見学・大阪・神戸・京都観光などのイベントを行いました。その中で、2 月 20 日大阪薬科大学で研究室見学と交流会を開催させていただきました。2 月 20 日の大阪薬科大学での研究室では、薬品作用解析学研究室・循環病態治療学研究室・生薬科学研究室を見学させていただき、日本における薬学教育・薬学研究を視察し理解を深めることができました。

日本薬学生連盟について

一般社団法人日本薬学生連盟（英語名称：The Association of Pharmaceutical Students'-Japan 英語略称：APS-Japan）とは、WHO（世界保健機関）や FIP（国際薬剤師連合）と正式にパートナーシップを結ぶ IPSF（国際薬学生連盟）に日本で唯一正式加盟している、世界中の薬学生と共に活動を行っています。（一社）日本薬学生連盟は日本の薬学生の代表として世界の薬学と日本をつなぎ、また日本の薬学生の活動や状況を世界に伝え、薬学生の意識の向上に貢献しています。

薬学生による薬学生のための団体です。2011 年より、旧『薬学生の集い』より団体名称を『日本薬学生連盟』に名称を変更し、2013 年 4 月には一般社団法人化致しました。

全国の他大学の薬学生との交流は勿論、他医療系学生との交流や社会人の方々との意見交換の場なども提供している薬学生による薬学生のため団体です。

現在の会員は薬学部 4 年制・6 年制、そして大学院生も含め幅広い学生が参加しており、北は北海道から南は九州まで、多くの大学のサークルと薬学生が加盟しています。薬学生による薬学生のため団体です。

<大阪薬科大学研究室見学>

午前中に、薬品作用解析学研究室で大野教授より日本の薬学部のカリキュラムについてと神経学的病気についての研究について講義をしていただきました。日本の薬剤師としてのその後の進路事情を聞くことができ勉強になりました。留学生が先生に対して遠慮なしに質問していて、すごく感心しました。お昼休みは、大学の食堂で大薬生と一緒にご飯を食べ、楽しい時間を過ごしました。留学生は、食堂の値段が安くて美味しいと喜んでくれ

ました。午後は、まず初めに循環薬物治療学について、林教授より基本的な倫理的な概念からクリニックで結果を使った方法まで、CHFのH₂ガス治療についての講義をしていただき、実際に研究室に行き、PCR法も披露して見せていただきました。生薬科学研究室では、谷口教授のもと、紫雲膏と葛根湯を3つの班にわかれて作りました。また、漢方について学び、生薬標本室にも入らせてもらいました。留学生は、生薬について興味津々でたくさんの質問をしてくれて、まだ私たちが授業で学んでないものは先生に尋ねたり、ネットで調べながら伝えることで自分自身の勉強にもなりました。欧州では、西洋ハーブが有名であるが漢方はあまり知られていないのでとても興味をもってくれました。



その後、茶道部の協力のもと、茶道の先生にも来ていただき茶道室で抹茶を実際にたててもらい和菓子とともに頂きました。実際に抹茶を呑んだのは始めてだったようで、日本の文化に触れることが出来大変喜んでいました。



最後に、ホールを借りてピザやオードブルを頼んで大薬生11人・留学生3人で小規模な交流会を行いました。

交流会では、薬学・薬剤師に関するクイズを行ってみんなで盛り上がりました。

今回の研究室見学で、日本と海外の薬剤師の違いや大阪薬科大学の規模や研究室の種類の多さ・機械の新しさについて知ることができました。大学の研究室案内という活動において各国の大学事情を知ることができました。日本と韓国では、わずかな違いがありました。日本では4年と6年のコースがあるが、韓国では6年のカリキュラムコースだけでした。

日本では6年のコースを選んでいる学生は、臨床実習のためにC B T・OSCE があるのに驚いてました。また、ポルトガルとチェコでは5年で卒業でき、また資格のためのテスト（国家試験）がないみたいです。また、E Uで薬剤師はE U内でなら違う国で働くことができるようで驚きました。彼らは、私たちの大学を褒めてくれたので嬉しく思いました。



<Welcome party>

2月7日 Welcome party は今回の交換留学の最初のイベントなので、まず、第一に留学生との交流の場を作ることを優先しました。そのため、**free time** を多めにとりました。

交流をより促進させるために、後半にはいくつかゲームも用意しました。ゲームのルールが留学生にもわかるように英訳するものも加えました。

英語が苦手である参加者も留学生と積極的に話そうとしている様子が多く見受けられました。それにより、他国の薬学部生と気軽に交流できる場というのは多くの人にとっても貴重な体験であることであることを知ることができました。

<神戸観光>

2月9日宝塚自然の家で餅つき体験を行いました。留学生は、初めての餅つきにすごく感動していました。米からだんだん餅になっていく過程はすごく面白かったです。きな粉・しょうゆ砂糖・あんこなどいろんな味を楽しみました。餅つきの後、外でドッジボールをして遊んだり、竹馬などの日本の遊びをしてとても喜んでもらいました。



<薬膳料理教室>

2月21日薬膳を通じ、食についての知識を深めるために京都市北青少年活動センターにて薬膳の先生をお招きし、薬膳料理教室を行いました。ひな祭りが近かったということもあり、ちらし寿司・蛤のお吸い物・レバーのスパイス焼き・グレープフルーツのブランマンジェを作りました。これらの料理には、一見普通のメニューに見えますが薬膳においての意味があることに驚きました。

というのは、薬膳において五色(木・火・土・金・水)が大事であり食材の効能を把握し、目的にあわせて春という季節は、風邪をひきやすく、肝熱が上がりやすく、肝血が不足しやすいです。風は色んな病気のもとになりやすくそのためにウナギがよく、肝熱があがると、目が充血し、筋肉がつりやすくなり、イライラしやすくなるためセロリ・トマト・あさが適しています。肝血が不足すると、貧血・そわそわするのでレバー・金針菜が適しています。

その他の肝に働きかける食材としてはウコン・グレープフルーツなどがあります。このような食材の意味を知ると薬膳がすごく身近に感じられ、料理が好きな私としては今回でのごく薬膳に興味をもちました。また、春は木々と同様に、人間もののびのびするのがよいと教わりました。春に窮屈な生活をしていると、体にも悪い影響が出てくるので酸味は、収斂の作用を持つためたくさんとらないように気を付けるべきだと教わりました。



<Workshop～薬剤師に必要な要素とは～>それぞれの国における薬剤師のあり方の違いについて学ぶため2月22日立命館大学薬学部にて **Workshop** を行いました。プレゼンテーションでは前もって留学生たちにスライドを作成してきてもらいました。日本・チェコ・韓国における薬剤師の仕事、薬局のあり方、処方仕方の仕方、さらには大学の制度の違いまで学ぶことができました。何よりも各々の知的好奇心から質問が途絶えず、質疑応答の時間は予想以上に充実したものとなりました。プレゼン終了後、グループに分かれて「患者と関わる薬剤師の仕事」をテーマにして理想の薬剤師とはどのようなものか様々な視点から考え、グループごとに各々がだした要素をまとめて発表をしました。やはり、国は違えど考

えは似ていて患者中心の医療が大事で患者に対し思いやり、医療は進歩するので薬剤師になっても勉強が大事だと思いました。その前に国家資格を持つことが最も重要です。

感想

約1ヶ月の間留学生に自由な日がある時は個人的にも留学生と一緒に観光しに行ったりとすごく仲良くなり、かけがえのない友達をもつことができました。日本と海外の医療制度の違いを知ることによって日本の医療の優れている所、劣っている所を知ることができ、日本にいてもこれまでにない充実した1ヶ月になったと思います。この経験のおかげで将来どういう薬剤師になりたいか考えることができ大きな一歩になったと思います。今回異文化交流を通して国際感覚を身につけることもでき、また思った以上に英語が出でこなかったのでもっと英語が喋れるようになりたいと思うようになりました。これからの自分の課題にしたいと思います。

国際交流基金の助成により、このような貴重な機会を設けて頂いたことに大変光栄に思います。

